

唐土訓蒙

彙

地理

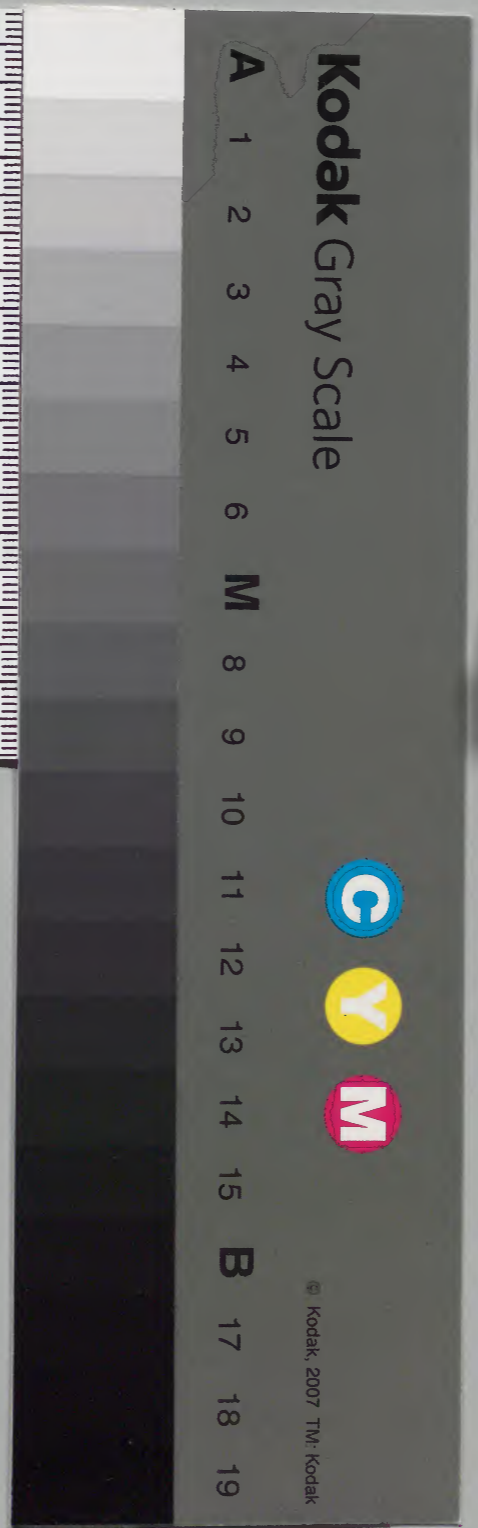
二

內閣文庫		
二 函	一 冊	和 書 類
三 架	三 號	

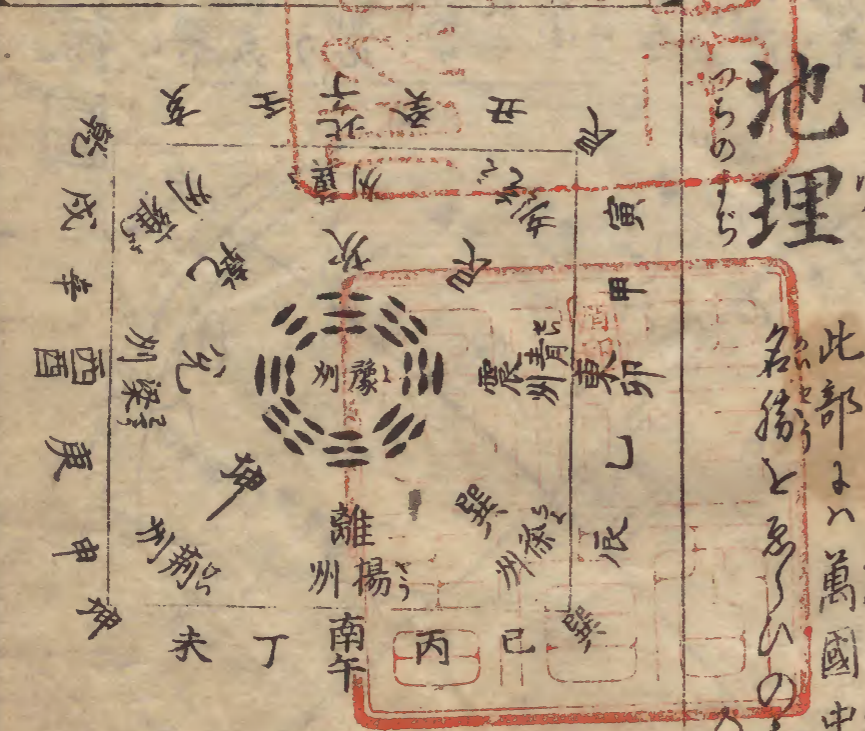
太政官文庫		
一 冊	三 架	和 書 門
五 冊	七 函	

內閣文庫	
番號	和 11134
冊數	15 (3)
函號	184 360

典故



伏義俯察地理之圖



唐土訓蒙圖彙卷之二

明治十二年購求

和名并和訓附

此部は萬國中
 名務とありの
 方ありとあり

此圖伏義の仰天
 文と義の對
 包義氏術一
 法と地觀家

深く小山高人南
 伏乃類と密
 察て易と他

唐土訓蒙圖彙卷之二

七

此輿地全圖ハ予壯年の時或人の家藏とていつて秘蔵して予
 幸とあり今幸一あり爲たり其家とて合符とて一國
 球圖とて今あるは元本ノ形状とていつとて毫厘もさ
 かく一凹一凹の隙一嶋一嶋の隙もあらずとて一國
 只らじらくハ果内接がして國名山の北とてくく
 のとてび人さゆかしくとていふ



中華十五省
華夷一統圖



卷之三

四

朝鮮國圖



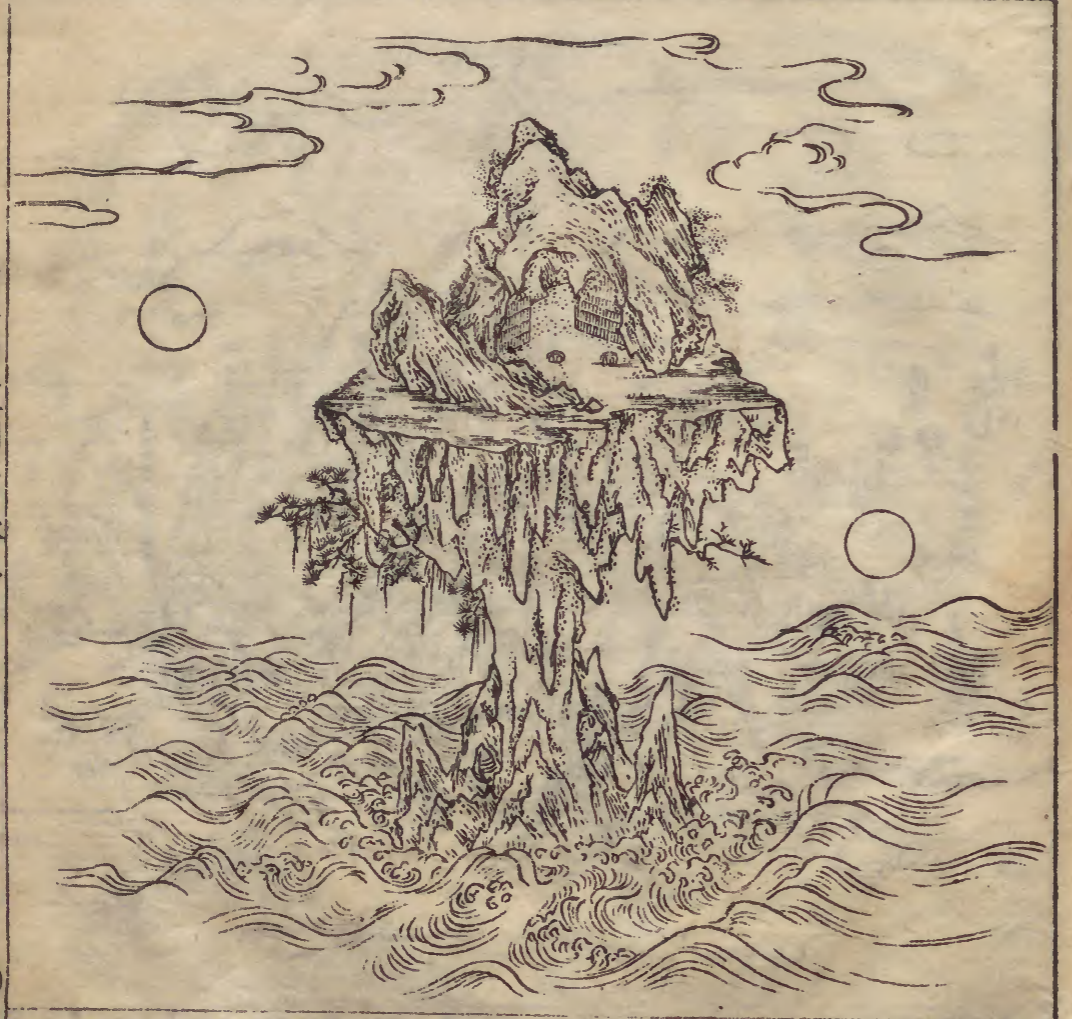
女直兀良哈夷



南

朝鮮國圖

琉球國圖

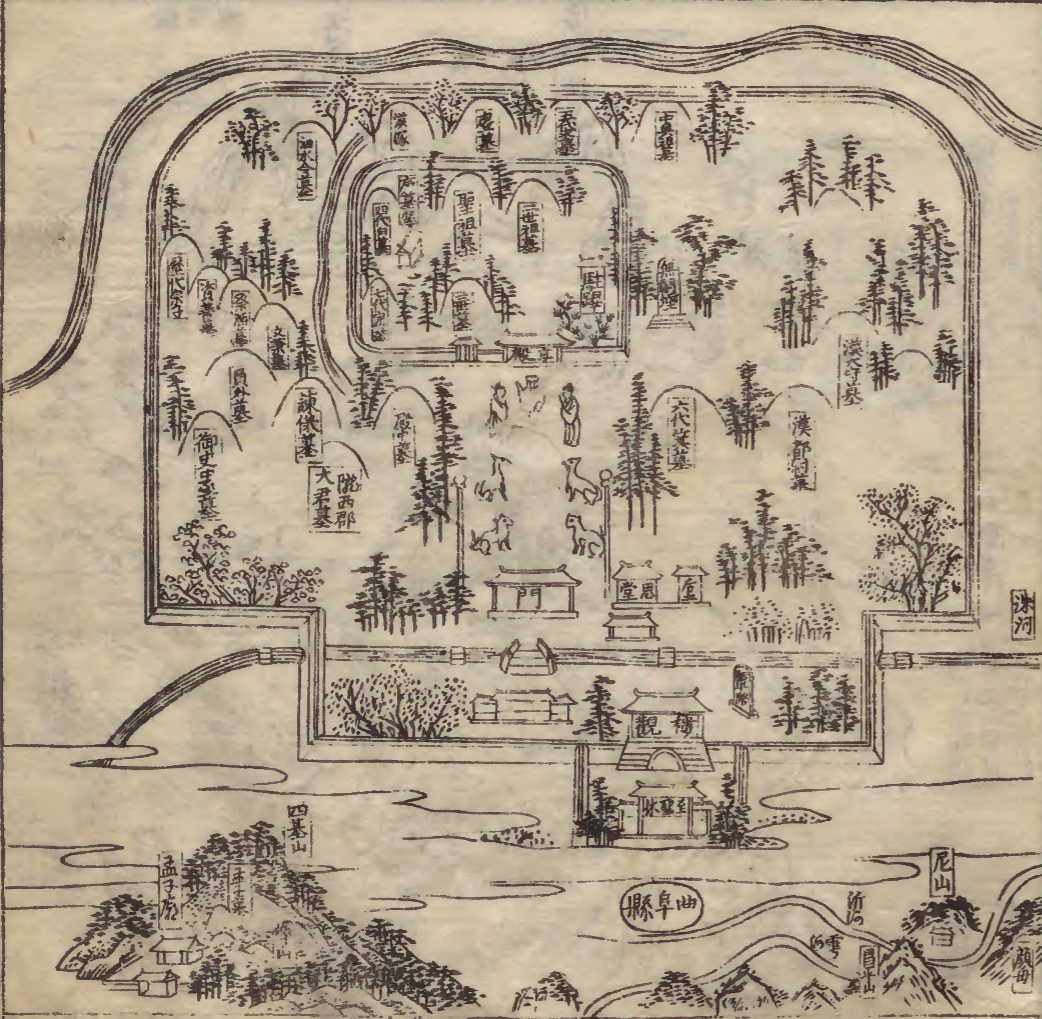


蓬萊山一名八重山
 蓬丘山一名八重山
 萊東海の中
 わり高と千里
 地のふか二千
 上に金臺玉關
 此は神仙の都
 上帝遊息乃化
 海水正色乃化
 風夕紀乃波浪
 多丈人乃の性
 来りて乃の性
 飛仙同と到る
 者あり首高王
 水と治て輪車
 一のり弱水と度
 て此山といふ
 といふ事

琉球國圖



孔林 尼山 山東
 省の濟南府の
 林の魯國也 兗州
 府の曲阜縣に在り
 里に尼山あり 母顏
 氏の精の所あり 尼
 山の東に顏母山あり
 西に昌平山あり 洙水
 の泗水乃ち洙水に泗
 河に聖林の後より
 沂河に縣門の外に
 あり 先聖墓に
 聖林の中央にあり
 墓前碑石あり 其
 冢壁而曲の中より
 荆棘又ハ刺あり
 幹と生きたる樹に
 ありこれ其の



孔子の墓の所を
 と持して樹を
 墓の所を丸籬を
 一丈の石燈あり
 その石各七の墓あり
 一の室ありひひ
 子貢の處の処あり
 墓の東南に子殿
 三間あり殿前には
 仲二たあり
 と石籬石虎あり
 季表二の殿前
 川三間ありの丘に
 ありあり觀路あり
 あり觀路とつら
 樹の南に林あり
 宜聖林あり



玉泉山 山頂は
 金行宮 芙蓉殿あり
 山畔に三の石洞あり
 石崖の上に玉泉の二
 字と刻あり 山下の水
 瀧入環十餘里 石窟
 多あり 石窟水窟
 遊りてすれり
 石洞に泉あり 泉の
 水と刻あり
 その鳴く 佩玉の如く
 之を玉泉の
 のりし 味もあやう
 下は度々三丈しりの
 比の如く 石窟を
 入る 花下の水流て
 西湖に入ると 系師八
 景の内の一の玉
 泉岳と云ふ



蜀棧道 七
 入る 漢の遺蹟あり 清水と
 なる 漢の遺蹟あり 清水と
 のゆかり 棧道あり 清水と
 大故園あり 園下の水あり
 八洞水あり 北の洞より 清水と
 わり 虎豹あり 清水と
 と 鳴く 佩玉の如く 清水と
 下は度々三丈しりの 清水と
 比の如く 石窟を 清水と
 入る 花下の水流て 清水と
 西湖に入ると 系師八 清水と
 景の内の一の玉 清水と
 泉岳と云ふ 清水と



洞庭君山 岳州府
 城の北二十八里あり
 又湘山と名づく狀ハ
 十二傑巖の如ク
 昔堯の女湘君殆
 此ノ居たり上ニ
 楚興寺軒轅臺
 柳毅井傳書日
 亭ニ兆昇亭響
 山酒香山あり
 地ニ
 洞庭湖ハ雲夢
 湖青草湖と名
 つりて君山と
 わる故ニ君山之
 洞庭山といふ
 京山とく述



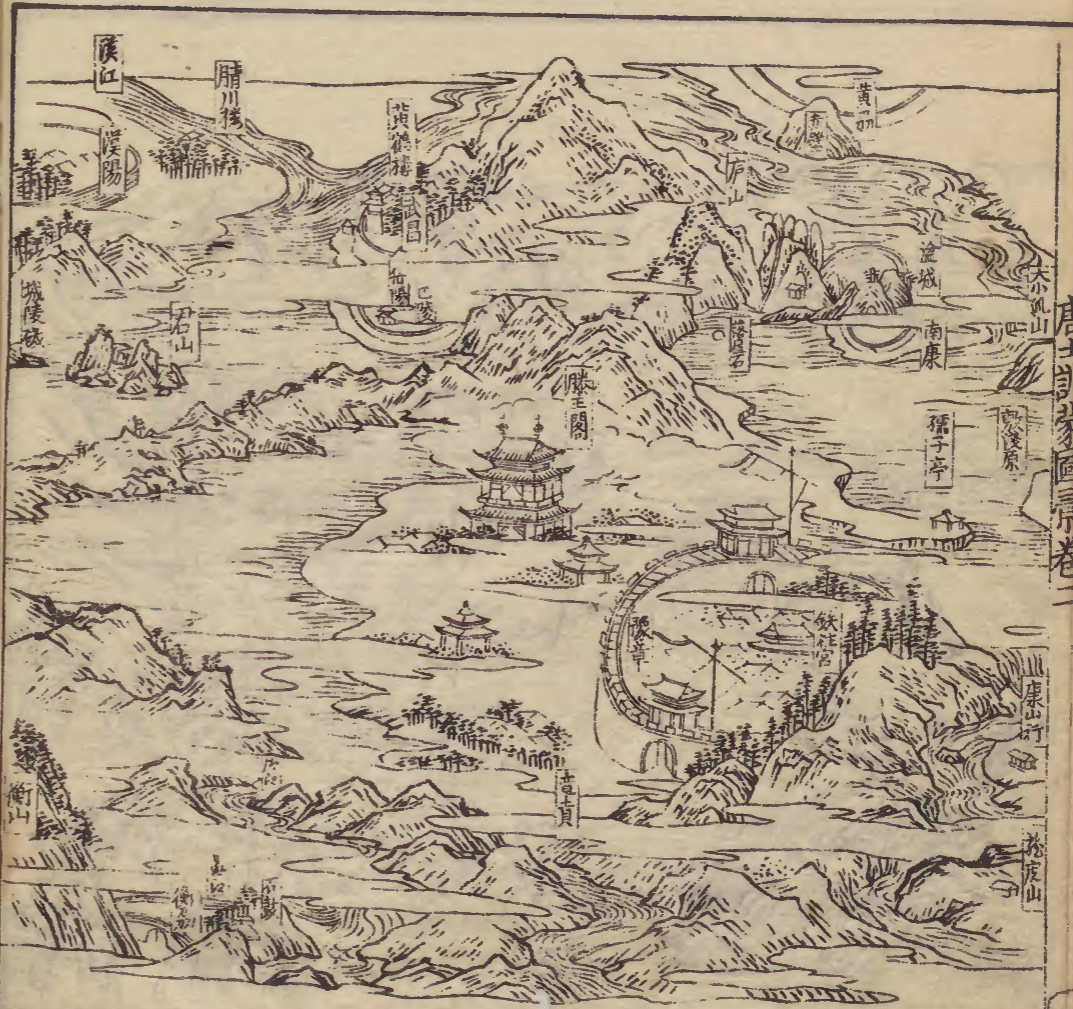
三柳 吳の
 公府城の西南三十
 六里あり大史公
 云柳の言ハ茂
 わりといふハ
 接武帝三柳ハ
 多温ニ交涼
 上中下あり故
 三柳といふ浦
 大盈浦黃橋門
 斜塘石湖秀州
 塔ノ山所系
 地多



赤壁山 武昌
 府城の東南九十里
 あり宋の元豊五
 年乃秋七月十六
 日 韓東坡揚世
 昌といふ者と二人
 舟のりいりて
 之のくむ世昌
 附洞簫とて
 そのたういそり
 獲子これより曹
 操のうへとて
 つまふ賦をつらぬ
 其文と前赤壁
 の賦と

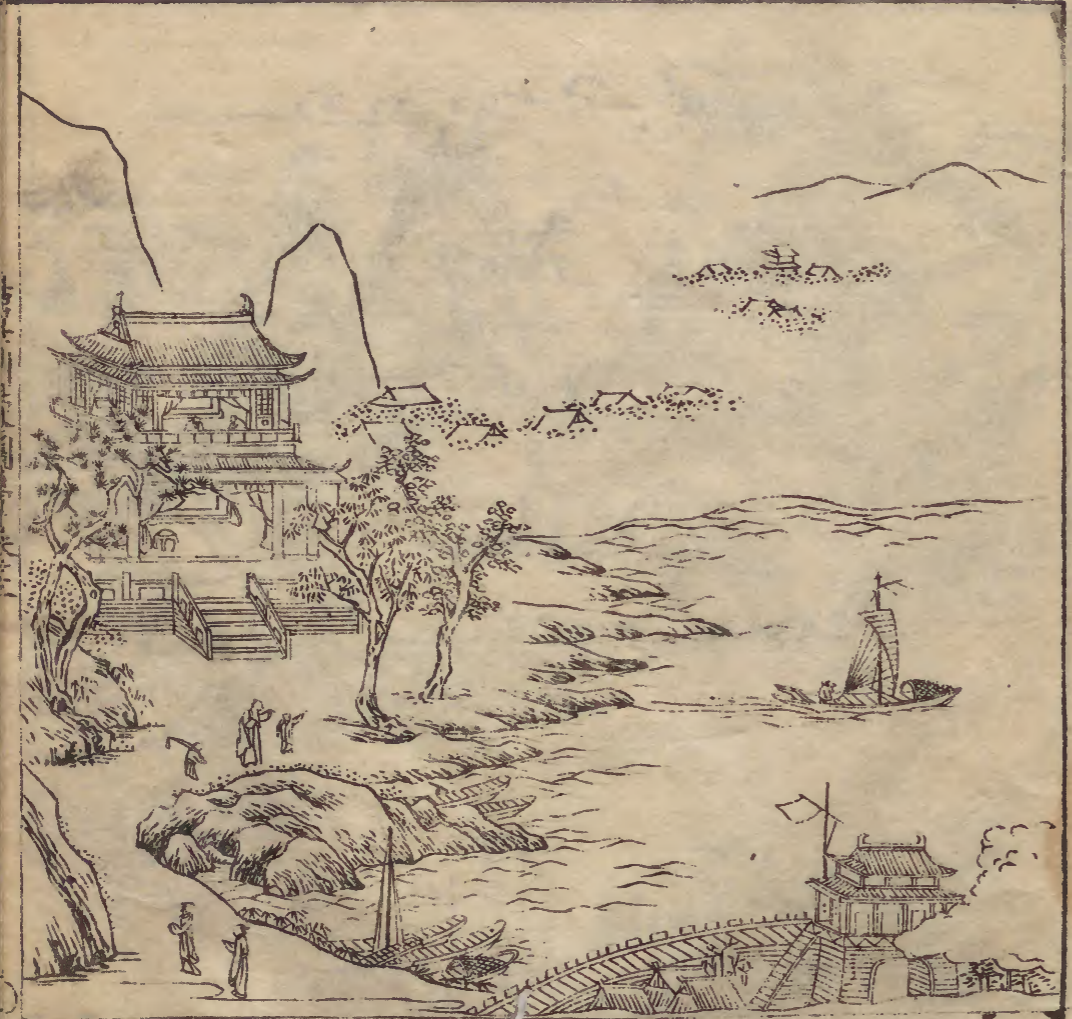


九鯉湖 興化府
 仙遊縣あり九仙
 宮山聳て一峰を
 なれ石上は飛泉
 あり其の味其
 一漢の時何氏
 とり入者元身九八
 わり此泉と飲
 して仙人といふ
 俗此と何巖といふ
 山と何巖湖と仙
 湖水と仙水縣と
 仙遊といふ皆何氏
 仙の故といふなり
 九仙宮といふと
 嶮多といふ



唐王閣圖卷

滕王閣 陸興
 府府城の爲章
 江門城ありて閣
 子元嬰いりて都
 督とありて閣を
 建つるは滕ま
 封せりて故ふ
 い名ありて二亭
 わり南と壓江と
 北と抱秀といふ
 後子固伯興都督
 とありて此閣を
 修復とてその序
 と王勃十三歳と
 あり石文に今此
 園ハ文よりて潤
 色とていふ



岳陽樓 岳州府
 大岳山の陽あり
 故に岳陽といふ樓ハ
 神岳の石ありて
 西面の洞をたそ
 君山なりて樓乃
 創始されと云とを
 中書令張詠出
 此邦にありて
 月とありてと登院
 してありてとあり
 よりして樓の名あり
 らるる後漢の梁
 宗敬つらつてとあり
 范希文の記とあり
 くのち燕子美とあり
 と書さるる跡とあり
 首とありとありとあり
 四絶と稱は



天台山 天台
 山ハ天台縣の西一
 百二十里天台山下
 八重なりまればとろ
 とりハ一乃とろ
 高さ一万八千丈周
 廻八百里高大の故
 とて上天の三山口
 星一在す故台
 嶽と稱はけし心
 寺院若干あり
 その外石橋あり
 半天より降り瀑
 布ハ深て雷を
 なり洞天桃源
 乃類多くふと
 く記

黄鶴樓 武昌
 府城西よりむじ
 費登仙黄鶴
 驚て此に甜心
 故に遂に橋を
 其橋を觀て
 上ハ河漢より下
 江漢のむじ岳陽
 橋といはれ一乃の
 ぬれんをとまこれ
 崔顥登樓詩
 昔人已乘黄鶴去
 此地空餘黄鶴樓
 黄鶴一去不復返
 白雲千載空悠悠
 晴川歷歷漢陽樹
 春艸萋萋鸚鵡洲
 日暮鄉關何處是
 煙波江上使人愁

泰山 東

山東濟南府泰安州あり五嶽の東也一名天孫天帝の孫といふか之を認つて王者命ヲ受つ時ハ必封禪ハ皆石ヲ刻テ功ヲ示ス



衡山 南

荆州の山鎮五岳の南也周旋數百里高四千一十丈東南ハ湘江の南湘川より長沙より七百里九向九背ハ禹王登之これとす



華山 西

豫州の山鎮五岳の西あり項王池あり千葉の蓮と生れあれと服すれん化すく華山といふとの名勝旧蹟とくく化す



恒山 北

山西大同府五岳の北あり恒山常山の常と三子九百丈七尺周廻三千里大玄の泉神州十九種と依てとせと度



高山 中 河南府登封縣あり中岳
名ありて山東と大室と一と名あり
二山名石室ありなり



雪堂 燕子瞻元豐三年二月
與之遊於嵩山正朔より舊屋と
改て四壁と書と畫と雪堂と名づく



羅浮山 增城博羅二縣ありて
邈よ海上のそびるて三千六百丈峰巒
四百三十二寺樓泉石巖洞池のありく
しくくあり



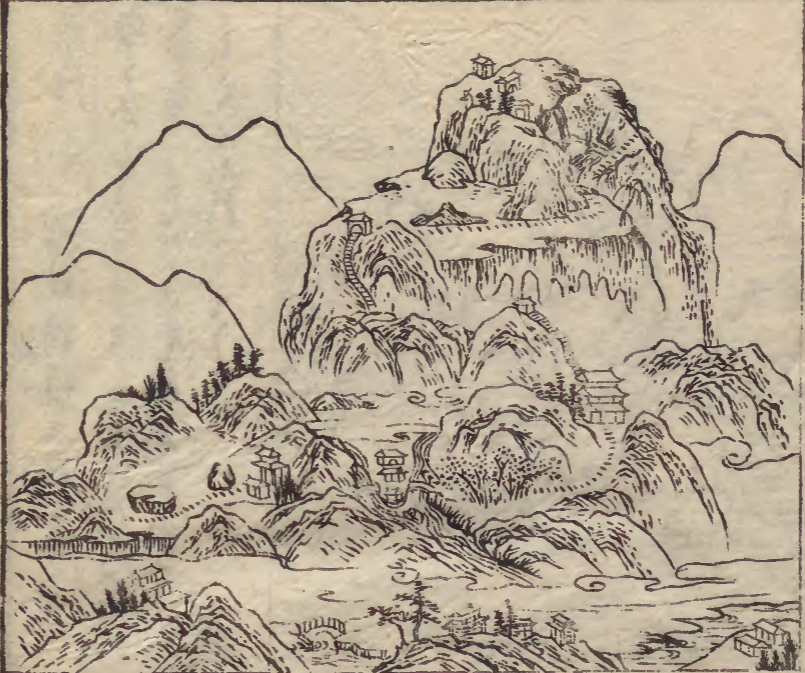
鹿門山 襄陽城外あり
世の水裏抱て真上隠士の所なり
龐徳公あり居て唐の孟浩然
若帰鹿門歌あり



峩眉山

嘉定州峩眉縣あり

峩眉三山大峩中峩小峩大峩
其高きよりりり佛書り元
す普賢大士示現の所なり



養龍坑

長官司兩山の間にあり

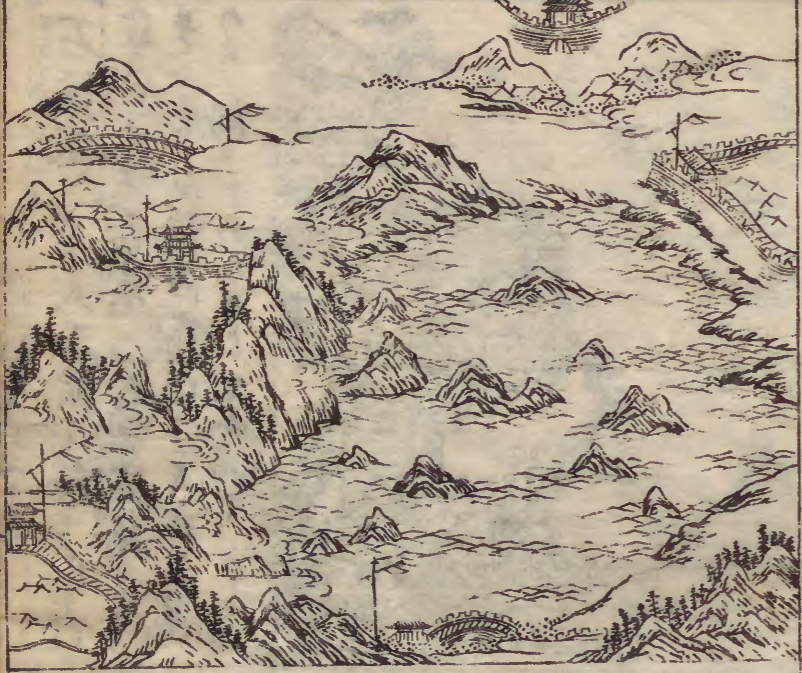
けりりの水は源一重地なり
乃の雲霧晦冥 際涯より四りて其
傍りて必は於駒と名む洛武四年元
人長大のものと名むりは



五湖

呉郡のありありありありあり

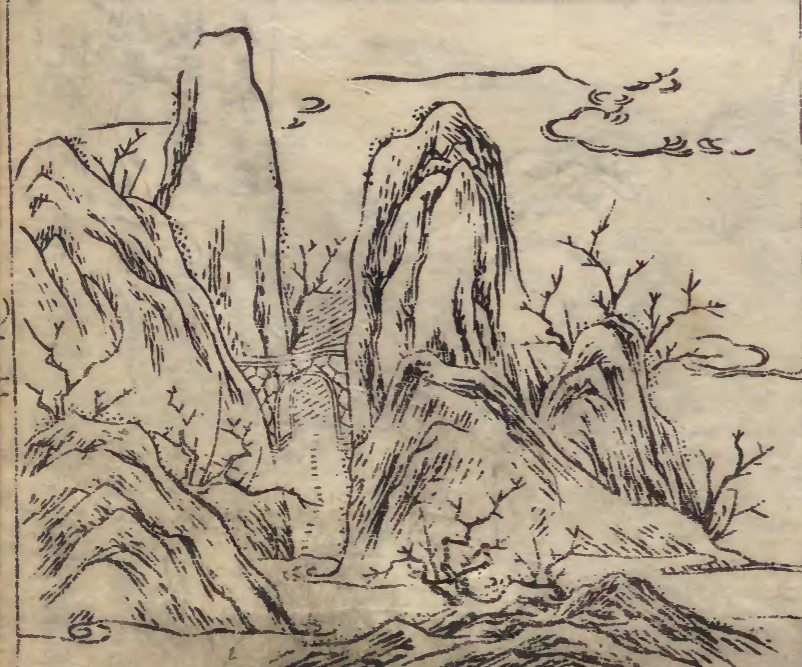
三萬六千頃中に七拾二ありて三
湖と名けりす一具區一名笠澤一名五
湖と名けりす大湖といへり



大庾嶺

南粵府城西あり五里あり

山さく嶺へり初ハ嶺の路峻阻ら
通るるり唐の張九齡石壁と開
折路と名けり上ハ梅多ハ梅福



石頭城

吳人石頭上據て城を
故より諸葛亮が石頭虎踞といふ
是より石頭西嶺の下大江に臨
り洞戸あり是も亦洞天といふ



桃源洞

常徳府桃源縣桃源山
桃源洞あり一名秦人洞洞の北あり
桃花溪あり晋の太元年中武陵の
人秦と避る人ありといふなり



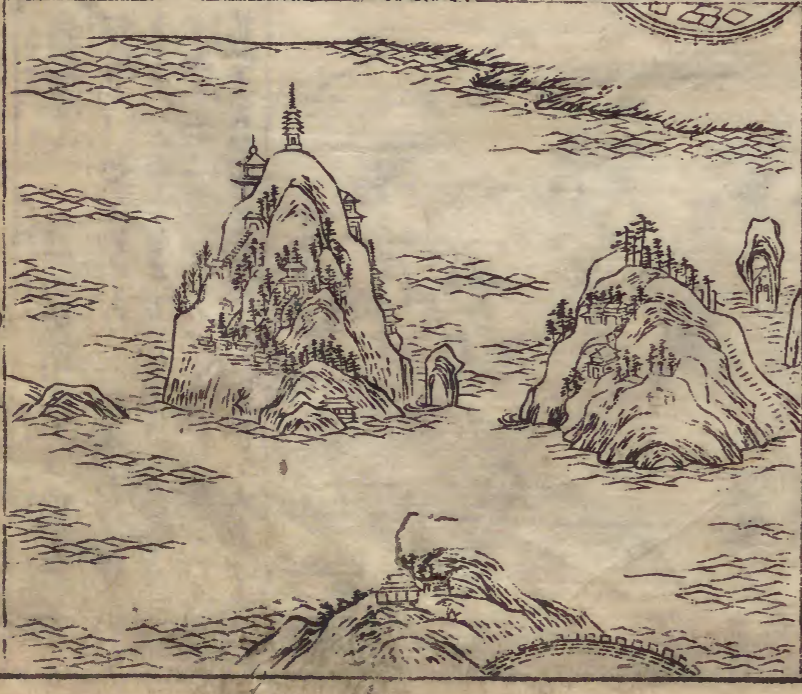
爛柯山

一名石室下石橋あり
道書に此山と書る後と申八の洞天
といひ王質此山に入て童子乃
奕として斧の柯乃爛る事あり



京口三山

北固山京口城の北あり
下長江のうむ金山楊子江の心あり
ありて北固の山と云ふ焦山京口城の
東北あり江中峙る三の山也



雲間九峯 所謂雲間ハびつゝ觀の
陸雲々々雲間陸士龍の語ありまよ
つて名は九峯ハ秀々峯九川
の峯ハ



首陽山 蒲州の南あり伯夷叔齊
かきり処也初のち二柏樹あり根ハ
と上ハ交て見まお傍ハ二鹿もつ
うやら処といふ初おの白鹿の觀ハ二
鹿と含ハ兼鹿乳とのじ故なりといふ



岐山

渭川府城の東南にあり
あり鶴鳴山と聯り岐山三峯秀々
龍江の上に聳たり十里ありりり
五代の時僧楚熙ありあり



廬山

南康郡ありその嶺三百
餘里ハ彭蠡と距ハ江漢と阻ハ
楚ハハ豫章の名山と稱ハ崇峻峻
嶺飛泉絶壑良田ありあり

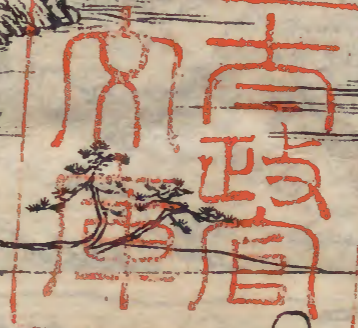
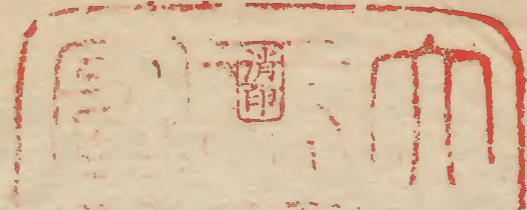


竹樓

黃州府より制度絶小

面而して江流のうらみ凡帆のさ
魚鳥の自適あり橋中乃出園を具

九疑山 永州府寧遠縣南六十
里ありそ九の峯參差おつひ
ひに水流ありて海入る



雁宕

樂清縣より天下奇なり山
とては石と木と成てこの山とら項々大
此ありてこの山と成てこの山とら項々大
まれてありてこの山と成てこの山とら項々大

蘭亭

浙東路紹興府會稽郡
一あり山陰北の方なりそ
東晋の穆帝の永和九年王羲之四十一人
相會し於此此地は崇峻茂林修竹
清流あり今も亭とのあり



